【第３種郵便物認可】

「命のバトン」表現

「神秘の島 奄美の世界 100歳の女神」写真展

即興のライブを披露し、奄美の持つ力や奄美への思いを伝えた山中さん(中央)

奄美観光大使・山中さん銀座で

【東京】写真家で奄美観光大使の山中順子さんが「神秘の島 奄美の世界 100歳の女神」100歳の女神からのメッセージは美しさのための処方箋」と題した写真展をアンテル銀座ラウエア中央区銀座5-10-1で開催。日替わりで撮影会や島唄などのイベントが催され、多くの人で賑わっている。

「100歳の彼女は、この世に生まれた命の輝きを、奄美群島を訪れて出会った100歳の女性の中の一つだ」―山中さんは、こう語る。

「100歳のおばあちゃんをきっかけに奄美群島に関わりを持つようになり、2000年から奄美の百歳の撮影を開始。長寿者との交わりを通して、島の食や暮らし、島唄、ユタ、旧暦の祭事などにも深い関心を寄せ、それを写真だけにとどまらず、島の食材をつかった長寿食の商品開発など手がける徒根屋㈱の立ち上げや、奄美の文化を外部に紹介するなど、様々な形で奄美の発信に尽力してきた。

今回は、山中さんが撮影した奄美の100歳の写真の最新作を展示しているほか、アート作品や大島紬を使ったバッグやアクセサリー、喜界島のこまや黒糖など島の展示販売。また、アンケルの青汁と徳之島の野生みかん「シークニン」の果汁のジュース試飲なども楽しめる。

写真展開催中、「美しく撮られる講座」として、山中さんがプロの視点で撮影に臨む際の姿勢や表情の作り方を指導。先着10人は無料、そのほかは基本料金3千円で本格的な写真撮影を行うほか、20日午後2時～と同4時～の2回は、里アンナさんの島唄ライブ（各40分）、21日午後1時からは、ジャーナリストの鳥越俊太郎さんを招き、山中さんと対談するなど、盛りだくさんのイベントを用意した。

初日は、山中さんが「ヨイスラ節」をアレンジして作詞・編曲し、「ネリヤへの想い～海の彼方にある豊穣の国へ」を披露。会場を訪れていた「野生児八」泰者の大由鬼八、大島紬の文化を発信する染色デザイナーの橋本真智子さんがチンで叩に合わせ、会場を魅了した。

山中さんは、「奄美は命が輝く島。100歳の『女神』がたくさんいる」と孫が、曾孫